



中村 誠

インスメッド合同会社  
社長

## 音楽は国境を越えて

35歳の時、突然米国本社勤務の話が持ち上がりました。外資系製薬企業のワイス社(のちに現ファイザー社に統合)のマーケティング部で新製品の導入に明け暮れていたころです。まず頭をよぎったのは仕事への期待や不安ではなく趣味であるギター・マンドリンオーケストラの活動が続けられるか、という一点でした。中学校からクラシックギターを始め、大学時代の同オーケストラでマンドリンを弾いていた現在の妻と知り合いました。卒業しても二人して社会人オーケストラで、熱心に演奏活動を楽しんでおり、これができなくなるというのは考えられないことでした。果たしてワイス本社のあるフィラデルフィア近辺にそんなオーケストラはあるのか否か？

妻とネットで探してみるとMunier Mandolin & Guitar Orchestraなる団体があります。赴任前だったのですが早速参加したい旨をメールで伝えたところ、基本的にイタリア系

市民の団体であるので…という想定外の返事。人種で入団をセレクトする時代錯誤に憤然とし、そこで断ってもよかったのですが、音楽をやりたいという欲求の方が強く、自分たちの熱意を説明するとようやく入団が認められました。

赴任後は毎週月曜日にフィラデルフィア市内のホールで夜の7時から団員約30人に交じり、私たちは当時小さかった子連れでの練習参加です。英語で演奏指示を受けることは初めてでしたが、合奏が始まってしまうとすぐに音楽に国境なしの一体感が生まれます。「イタリア系米国人」として結束しなければサバイバルできなかった文化も感じ取りながら、多くのコンサートに出演しました。今では多くのナショナルリティを受け入れているようで、2年間の赴任から早20数年。今でも付き合いは続いており音楽のもたらした絆の強さを感じています。



Munier Mandolin & Guitar Orchestraの皆さん(2001年当時)



部内発表会で団員メンバーと妻とで合奏